

2011.

07.

15.



**中崎一郎、
電子書籍にデビューしました。**

100%不定期刊
アドバム通信 *mini* **25**
た く ま だ よ り

2011.07.15

株式会社タップハウス

〒530-0021

大阪市北区浮田2-2-14 辻芳ビル3階

06-6375-2151

taphouse@nifty.com

PCサイト

<http://homepage3.nifty.com/tapphouse>

ブログ

できるだけ リアルタイム・タップハウス

<http://ameblo.jp/tapphouse>

iPhone サイト

<http://homepage3.nifty.com/tapphouse/i/index.html>

タップハウスの電子書籍（試験中）

<http://homepage3.nifty.com/tapphouse/i/ebook.html>

表紙の言葉

中崎一郎、
電子書籍にデビューしました。

世界がそれを望んでいたのか？

それは、わかりません。

中崎一郎自身が望んでいたのか？

それもわかりません。

でも、私はあいつの写真集を

作りたかったのです。

紙の写真集ではないけれど。

(1) 紙の印刷会社にあるまじき行為である。電子書籍を助けるってことは。

そういうことはわかっていました。

因幡晃さんに「わかってください」と歌われなくても。

でも、おっかしいなあ、とっていたのです。

去年、アップルさんが発売した「iPad」から巻き起こった「電子書籍ブーム」。

いろんな会社が提携したり、新しく「電子」で読める本を開発したり。

タップハウスでも、電子書籍で読めるPDFってものを作るために、「お手伝いしますよ」と、「夏の断裁祭り」を決行したこともありました。

しかし、「夏の断裁祭り」で踊ってくださった会社さんは、ただ1社。

試しで何冊かの背表紙をドン、と切らせていただきました。

けど、それだけ。

その後の動きは何もなし。

でもね。

チャンスだと思うのですよ。

だって、作りたい本が、自分の力で、お金をかけずに作れるのですよ。



こう言うてはなんですが、このタップハウスに入社したのは、自分で作っていたミニコミ誌が安く作れると思った。

という思想は、決してないものにはできません。

確かにそう思いました。そういうことは思いました。

そういうことを一度でも思ったことがある人間は、

「自分で作れば、無料で本が作れる」

って話に飛びつかないはずがないじゃありませんか。



で、電子書籍。

紙の印刷会社であるタップハウスでも、作らせていただきました。

(2) タップハウス製作の電子書籍第1号は「中崎一郎写真集」です。

ヤフーさんか、グーグルさんで、「中崎一郎」と検索してみてください。

そうすると、「中崎一郎写真集」なるものが出てきます。

それが、タップハウスが作った電子書籍の第1号。



「中崎一郎」といえば、あの「一郎ちゃん」です。

忘れもしないあの日（日時はすっかり忘れましたが）。

この『アドバム通信』のチラシを配らせていただいている途中、中崎町でひょいと出会った茶色のにくいやつ。

あの、にくたらしそうで、けどにくめない別名「ヒネ茶」の写真集です。



なぜ、タップハウスの電子書籍が「中崎一郎写真集」になったのか。

それは、とても中崎一郎くんの写真集を作りたかったからです。

あいつとすれ違った数分間の出来事を、どこかに残しておきたかったからです。

そして、あわよくば、それを私以外の人にも見てほしかったからなのです。



「中崎一郎写真集」は、タップハウスのブログからもご覧いただけます。

でも、まだそれはほんとの試作品。

自分で作れば、無料のパソコンソフトがあるし、無料でOKなのですが、それを仕事で受けるとなると、いくらで受ければいいのか？

まずは、「作りたい人のために、電子書籍のお手伝いをする」。

そうできるようになるため、試作品ができれば、タップハウスのブログにアップしていきたいと思います。

ご意見、ご苦情、ご注文は、ぜひタップハウスまで。

(タップハウス・田熊)